

令和 5 年 5 月 19 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K16616

研究課題名（和文）気分障害患者のライフイベントに関連した心理的苦悩症状のための尺度開発

研究課題名（英文）Identification of psychological features and development of an assessment tool for event-related psychological distress after experiencing non-traumatic stressful events

研究代表者

佐藤 愛子 (Sato, Aiko)

千葉大学・大学院医学研究院・特任助教

研究者番号：20831522

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：心的外傷後ストレス障害の診断基準に満たない、より日常的に生じる出来事に関連した心理的苦悩症状（Event-Related Psychological Distress：ERPД）に特化した評価尺度開発が本研究課題であった。質的研究により、ERPДの特徴を抽出して原案を作成した後、一般被験者を対象に尺度の信頼性・妥当性を検証し、評価尺度「ERPД-24」を作成した。さらに、気分障害患者と健常者を対象に横断研究を行った。非寛解うつ病患者および、双極性障害患者は寛解・抑うつ・躁/軽躁群に関わらず、健常者よりERPДが重度かつ頻回で長時間発生することを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

心理的苦悩症状（ERPД）の重症度を測る評価尺度「ERPД-24」を作成し、ERPДが復讐心・反芻・自己否定・精神麻痺の4要素で構成されることを明らかにした。気分障害のうち、主にうつ病患者のPTSD様症状に関する研究報告はあるものの、症状の詳細を探索した研究、評価や治療的視点を持った研究報告は見られなかった。本研究によりERPДの特徴を明確化し、その評価方法を開発することで、ERPДの臨床精神病理的な理解が進むと共に、これまでPTSDの診断がつかないため治療対象とみなされなかった気分障害患者のERPДを適切に評価し、治療的介入の対象とみなす視点を得られ、今後の気分障害治療に有益となると考える。

研究成果の概要（英文）：We developed a rating scale specifically for the assessment of psychological distress in psychological distress related to events that may occur more routinely and do not meet the diagnostic criteria for post-traumatic stress disorder. We used qualitative research to identify clinical characteristics of event-related psychological distress (ERPД) and drafted a rating scale. Subsequently, we selected sufficient items from the drafts created to assess ERPД, validated the scale with general subjects, and created the rating scale, ERPД-24. We used the rating scale to examine differences between patients with mood disorders and healthy controls, differences by mood state, and associations with other rating scales, with the following results. Our research reveals that patients with bipolar disorders and non-remitting depression had more severe ERPД than normal subjects, and that all the patients with mood disorders had more frequent and prolonged ERPД than healthy controls.

研究分野：精神医学

キーワード：心理的苦悩症状 ライフイベント 気分障害 評価尺度作成 ERPД-24

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

ストレスフルなライフイベントがうつ病・双極性障害などの気分障害の発症契機や回復障害要因となることが知られている。申請者の所属する研究室では、家族・職場などでの対人関係の問題や経済的困難など、心的外傷後ストレス障害（PTSD）の診断基準に満たない、より日常的な出来事に関するフラッシュバックや憤り、後悔などの心理現象を、「ライフイベントに関連した心理的苦悩症状：Event-related psychological distress（ERPD）」と定義し、非寛解のうつ病患者¹や、抑うつ・躁・軽躁状態の双極性障害患者²は、寛解患者に比べて ERPD がより重篤であることを明らかにした。しかし、これらの研究では、ERPD を評価する手法が未確立であったため、PTSD の評価尺度である改訂出来事インパクト尺度（IES-R）を用いざるを得ない研究限界があった。IES-R では、気分障害における ERPD を正確に評価出来ず、IES-R にない症状の存在を知ることが出来ない。また、ライフイベントの内容は死に直面する等 PTSD のイベントと異なるため、ERPD を的確にとらえているか疑問が残る。そのため、申請者は、ERPD を症候学的に明らかにし、その重症度を評価するための尺度を作成することとした。

2. 研究の目的

本研究では、①気分障害患者の ERPD を臨床的側面から明確化し、気分障害の病態解明を躍進させること、②ERPD の評価に特化した評価尺度を開発することで、ERPD を有する気分障害患者の状態を正確に把握、評価し、新たな治療法への足掛かりとすること、を目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、当初研究Ⅰ・Ⅱのみを行う予定であったが、作成した評価尺度の気分障害患者に対しての実用性の評価を目的とし、研究Ⅲを実施した。

(1) 研究Ⅰ. 気分障害患者における心理的苦悩症状の臨床的特徴に関する質的研究

ERPD を持つ、20-64 歳のうつ病もしくは双極性障害に罹患した男女を対象に、ERPD を来すライフイベントの内容や想起する頻度、その時の感情、身体反応などを半構造化面接にて聴取し、得られた質的データから ERPD の臨床的特徴を抽出し、KJ 法におけるグループ分けの手法を用いて評価尺度の原案を作成した。

(2) 研究Ⅱ. 心理的苦悩症状の評価尺度開発研究

研究Ⅰで作成した原案から、ERPD を評価するために必要十分な項目を選定した。クロス・マーケティング社と契約し、Web にて調査を行った。20-64 歳の健常被験者に対して、評価尺度の原案、及び、先行研究でも使用してきた既存の IES-R、QIDS-J（簡易抑うつ症状尺度）での評価を同時に行い、評価尺度の項目選定のための探索的因子分析を行い、項目を選定した。また、原案と IES-R の相関と、性別・出来事発生からの期間・QIDS-J スコアを調整した偏相関分析を行い、尺度の妥当性を検証した。また、2 週後に再検査を行い、開発した尺度の信頼性を検証した。

(3) 研究Ⅲ. ERPD-24 を用いた気分障害患者のライフイベントに関連する心理的苦悩の検討

作成した尺度を 20-69 歳の健常者及び気分障害患者（双極性障害・うつ病）に対して使用し、気分障害患者と健常者、また気分の状態ごとの点数と内容を検討した。また、同尺度の点数と他の評価尺度（QIDS-J、ヤング躁病評価尺度、新版 STAI、リーボヴィッツ社交不安尺度日本語版、自閉症スペクトラム指数、不安・抑うつ発作、改訂出来事インパクト尺度）との関連性を評価・検討した。

4. 研究成果

(1) 研究Ⅰ. 気分障害患者における心理的苦悩症状の臨床的特徴に関する質的研究

被験者に対して、心理的苦悩症状を来すライフイベントの内容や想起する頻度、その時の感情、身体反応などを半構造化面接にて聴取し、得られた質的データから心理的苦悩症状の臨床的特徴を抽出し、評価尺度の原案作成を行った。

(2) 研究Ⅱ. 心理的苦悩症状の評価尺度開発研究

Web 調査結果に基づき、Promax 回転と最尤法を用いて探索的因子分析を行い、Scree plot において固有値が 1 より大きい 4 因子の構造とした。固有値は、それぞれ 8.43、3.37、1.31、1.11 であり、累積因子寄与率は 51.5%であった。Cronbach の α 係数は、ERPD-24 全てで .91、4 因子では .82 から .88 であった。

Factor 1 : 復讐心 (Feelings of revenge)	7 項目
Factor 2 : 反芻 (Rumination)	7 項目
Factor 3 : 自己否定 (Self-denial)	6 項目
Factor 4 : 精神麻痺 (Mental paralysis)	4 項目

図1. ERPDの4要素と具体例 (抜粋)	
復讐心 ・思い出すとイライラする ・仕返しをしたくなる ・人生を台無しにされた	反芻 ・様々な場面が頭から消えない ・考えたくなくても、つい考えてしまう
自己否定 ・自分を責めてしまう ・価値がない人間だ ・みじめな気持ちになる	精神麻痺 ・身体が重くなる ・頭がぼーっとする ・集中できない

以上より、4因子24項目から成る評価尺度「ERPD-24」を作成した(次頁)。また、これにより、復讐心などのPTSDにはない臨床的特徴を明らかにした。(図1)

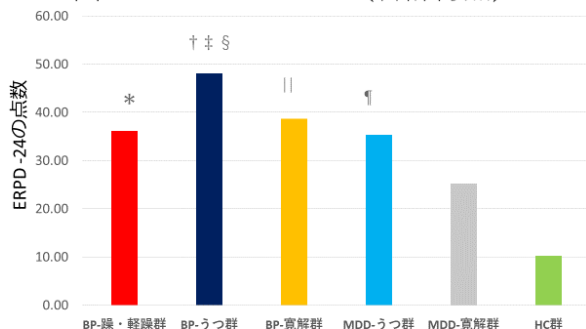
(3) 研究Ⅲ. ERPD-24を用いた気分障害患者のライフイベントに関連する心理的苦悩の検討

作成した尺度を健常者と気分障害患者に使用し、気分障害患者と健常者、また気分の状態毎の点数と内容の検討、同尺度の点数と他の評価尺度との関連性の評価・検討等を行い、以下の結果を得た。

①うつ病非寛解群と、寛解・非寛解に関わらず双極性障害の全ての群において、健常者よりも有意にERPD24の点数が高く、ストレスフルな出来事に関連したERPDが重度であった。うつ病の寛解群では健常群と有意差はみられなかった。(図2)

②「ERPD 関連イベントの時期」では、双極性障害患者において自己否定との間に有意な負の相関が見られ、健常者では精神麻痺との間に有意な正の相関が見られた。「ERPD を思い出す頻度」では、双極性障害患者では反芻と精神麻痺、うつ病患者では復讐心以外で有意な正の相関が見られた。「ERPD を思い出す持続時間」では、うつ病患者でのみ、ERPD-24の合計得点、反芻、自己否定で正の相関が見られた。以上より、気分障害患者では健常者に比して、ERPD が頻回かつ長時間に及ぶことが示唆された。(表1)

図2. ERPD-24スコア (合計得点)



* BD-躁・軽躁群とHC群の比較 ($p < 0.05$) § BD-うつ群とHC群の比較 ($p < 0.05$)
† BD-うつ群とMDD-うつ群の比較 ($p < 0.05$) || BD-寛解群とHC群の比較 ($p < 0.05$)
‡ BD-うつ群とMDD-寛解群の比較 ($p < 0.05$) ¶ MDD-うつ群とHC群の比較 ($p < 0.05$)

表1. ERPDの時間関連情報の相関

	ERPD関連イベントの時期 (何年前か)	ERPDを思い出す頻度	ERPDを思い出す持続時間
双極性障害			
ERPD-24合計	-0.256	0.253	0.228
復讐心	0.010	-0.011	-0.031
反芻	-0.293	0.354*	0.267
自己否定	-0.346*	0.160	0.230
精神麻痺	-0.158	0.359*	0.298
うつ病			
ERPD-24合計	-0.046	0.470**	0.400*
復讐心	0.061	0.024	0.176
反芻	-0.025	0.631**	0.375**
自己否定	-0.113	0.472**	0.437**
精神麻痺	-0.111	0.404*	0.290
健常者			
ERPD-24合計	0.090	0.235	0.266
復讐心	-0.055	0.221	0.103
反芻	0.274	0.307	0.282
自己否定	-0.055	0.072	0.255
精神麻痺	0.436*	-0.093	0.148

* $p < 0.05$. ** $p < 0.01$

③ERPDは不安関連尺度(STAI, LSAS-J)と相関があり、不安抑うつ発作があると重度のERPDを呈することが判明した。(表2)

表2. 不安・抑うつ発作とERPD-24

全患者	不安・抑うつ発作なし	不安・抑うつ発作あり	t	p	95%信頼区間
80	40	40			
ERPD-24合計	32.63 (15.036)	42.40 (13.821)	-3.027	0.003	-16.204, -3.346
復讐心	11.00 (5.666)	11.38 (5.564)	-0.299	0.766	-2.875, 2.125
反芻	9.10 (4.684)	13.90 (4.634)	-4.607	0.000	-6.874, -2.726
自己否定	8.00 (4.946)	11.10 (4.754)	-2.858	0.005	-5.260, -0.940
精神麻痺	4.53 (3.146)	6.03 (3.034)	-2.171	0.033	-2.876, -0.124

<引用文献>

- 1 Kimura, Hashimoto, et al. J Affect Disord. 2015
- 2 Sato, Hashimoto, et al. Front Psychiatry. 2018

あなたは下記のような体験をしたことがありますか。または、家族や親しい人が下記のような体験をしているのを、あなたがいたり、かかわったりした事がありますか。

- ・病死を除いて、実際にまたは危うく死ぬような出来事（事故、災害、戦争、不自然な死）
- ・重症なケガを負う
- ・性的暴力や虐待を含む身体的暴行
- ・テロや誘拐、火事

ない ある （「ある」を選んだ方は、終了してください）

先ほどの例のような生命への脅威をもたらすような出来事ではなくとも、私たちは日々の生活の中で、いやな気持ちになったり、つらい気持ちになるような出来事を経験します。

この質問表では、あなたのこれまでの人生のうち、1ヶ月以上前に経験した、今でも不快な記憶や気持ちを起こさせる出来事についてお尋ねします。

それらの出来事のうち、今でもよく思い出す出来事を1つ記載してください。

（出来事がない人は、「なし」と書いてください）

その出来事があった時期はいつですか。 約（____）年（____）月前 （月は空欄でも可）

この1ヶ月間にその出来事をどのくらいの頻度で思い出しましたか（1つ選んでください）。

- 0, 全くなし 1, 1回か2回 2, 週に1回か2回 3, 週に数回 4, ほとんど毎日

その出来事はどのくらい継続して思い出しましたか（1つ選んでください）。

- 0, 1分未満 1, 1分～5分未満 2, 5分～10分未満 3, 10分～30分未満
 4, 30分～1時間未満 5, 1時間～3時間未満 6, 3時間以上

続いて、以下の質問を読んで、**本日を含む最近の1週間**で、そのことを思い出すときに、最もよくあてはまる欄に○をつけてください（2ページ目まであります）。

（回答に迷った時は、あまり深く考えずに、近いと思うものを選んでください。）

		0. 全くあてはまらない	1. あまりあてはまらない	2. ややあてはまる	3. とてもよくあてはまる
1	そのことを思い出すと、うんざりした気持ちになる				
2	そのことを考えたくなくても、つい考えてしまう				
3	そのことを思い出すと、自分を責めてしまう				
4	そのことに人生を台無しにされたと思う				

		0. 全く あては まらない	1. あまり あては まらない	2. やや あては まる	3. とても よく あては まる
5	そのことを思い出すと、体が重くなる				
6	そのことを思い出すと、周囲の人（家族、知人、職場、学校など）に対して申し訳ない気持ちになる				
7	そのことを思い出すと、胸が重苦しくなる				
8	そのことの原因になった人がいなかったり、原因自体がなかったらよかったのと思う				
9	そのことを思い出すと、自分は価値が無い人間だと感じる				
10	そのことを思い出すと、悲しくなる				
11	そのことを思い出すと、怒りを感じる				
12	そのことに自分がうまく対応できなかったと思う				
13	そのことを思い出すと、集中できなくなる				
14	そのことについての様々な場面が、頭から消えない				
15	そのことを思い出すと、仕返しをしたくなる				
16	そのことを思い出すと、後悔する				
17	そのことを思い出すと、イライラする				
18	そのことを思い出すと、何もする気がしなくなる				
19	そのことを思い出すと、恐怖を感じる				
20	そのことを思い出すと、みじめな気持ちになる				
21	そのことの原因を考えると憎いと思う				
22	そのことを思い出すと、憂うつになる				
23	そのことを思い出すと、頭がぼーっとする				
24	そのことを思い出すと、息苦しくなる				

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Ryota Seki, Tasuku Hashimoto, Mami Tanaka, Hiroki Ishii, Michi Ogawa, Aiko Sato, Atsushi Kimura, Akihiro Shiina, Michiko Nakazato, Masaomi Iyo	4. 巻 16
2. 論文標題 Identification of psychological features and development of an assessment tool for event-related psychological distress after experiencing non-traumatic stressful events.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PloS one	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0249126.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 関亮太、橋本佐、田中麻未、石井宏樹、小川道、佐藤愛子、木村敦史、椎名明大、中里道子、伊豫雅臣
2. 発表標題 ライフイベントに関連した心理的苦悩症状の解明と尺度開発
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井宏樹、橋本佐、田中麻未、小川道、関亮太、佐藤愛子、木村敦史、伊豫雅臣
2. 発表標題 気分障害患者における出来事に伴う心理的苦悩の評価尺度（ERPD-24）の実用に向けて
3. 学会等名 第19回 日本うつ病学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------